

## 学ぶ意義

中学校のキャリア教育でも学習していますが、「なぜ勉強しなければならぬのか」この問いは誰もが一度は考えたことがある課題ではないかと思えます。

勉強すると、目にはみえないけれど自分が成長します。勉強する前の自分と後の自分とは、後の自分の方がちよつとだけ多く世界のことを理解したことになります。それは、自分にとっての世界が広がっていくということだと思います。

そして、「なぜ、勉強しなければならぬのか」その理由は一言でいうと「生きていく力をつけるため」だと思います。

将来就職して仕事を進めていくためには、ある程度パソコンもできなくてはならないし、これからの時代は英語もできなければならぬともいわれています。数学で身につけた計算力、論理的に考える力、読書で身につける想像力、読解力、いろいろな人と議論しながら身につける「言葉の力」も必要です。

加速度的に変化していくこれからの社会には「これとこれだけやれば社会人として大丈夫」というゴールはありません。最終的に身につけてほしいのは、そのときそのときに必要な力を見極めて自分のものにする力。すなわち学ぶ力と学ぶ習慣です。つまり人生、常に勉強だということです。

勉強しているにつらくなることはあります。誰もが同じ経験をします。でも、不思議なことに、ある程度のレベルまでいくと楽しくなつてきます。どんなことも習慣にするまでにはつらい時期が必ずあります。そこであきらめてしまうと、よい習慣は身

につきません。勉強も「つらいな」と感じる時期を乗り越えれば当たり前と思える時期が必ずきます。「始めること」以上に「続けること」が大切です。

富士山の形を思い出してください。富士山は高いというイメージがありますが、その土台である裾野が広いというのも富士山の特徴です。子どもの頃の勉強は、大人になってからの勉強の土台づくりみたいなものです。この時期にしっかりと土台をつくっておかないと、大人になってからいくら頑張っても高い山をつくることはできなくなります。やってもやっても高くなっていかないので努力することがいやになってしまいます。

生徒の皆さんには、次の時代が少しでも良くなるように世の中の役に立つ大人になってほしいと思います。それができてこそ、社会の一員です。それができると自然と収入を得ることができず。「世の中の役に立って何だろ。世の中をよくするために自分ができるとは何だろ」を考えてほしいと思います。そしてその答えは、勉強し続けなければわからないことです。なぜ勉強しなければいけないのか。大きな問いですが、ぜひ親子でも考えてみてください。それが子どもの生きる力を引き出すはずですよ。

## 職場体験学習

知識や技能の習得にとどまらず学校と社会を現実に結びつけながら将来自分はどうのように生きていくのか、「生き方」を学ぶキャリア教育の一環として、11月7・8日（木・金）の二日間、二年生は職場体験学習を実施しました。

協力していただいた地元の実業所は34か所を数えました。この職場体験を行うために、生徒はまず直接実業所に電話をして、訪問のために生徒は電話でアポイントを取り、各実業所を訪問し体験学習に関する打合せを実施しました。

健康・安全に十分注意すること、挨拶・返事・後始末、報告・連絡・相談がきちんとできることは、社会人として仕事を進める上で重要です。職業人が社会の一員として、責任を持って取

り組んでいる仕事に對して、心構えをしっかりとしないで向かわせるわけにはいきません。生徒には少し厳しく感じられたかもしれませんが、こうした心構えの指導も積み重ねてまいります。当日を迎えるまでの準備は、苦勞していましたが、みんなで声を掛け合い、協力しながら、しっかりと取り組むことができました。当日は天候にも恵まれ、どの職場においても、生徒は一生懸命に仕事をしていました。また、各実業所からのアンケートを見ると、生徒の取組が真摯で、仕事ぶりが高く評価されていました。

部活動においては夏休みから、生徒会はこの11月からリーダーとして活動し始めた二学年も、最上級生になるのにふさわしい資質を備えつつあります。今回の職場体験は成長した二年生の姿を地域の事業所の皆様に見てもらい、良い機会となりました。

